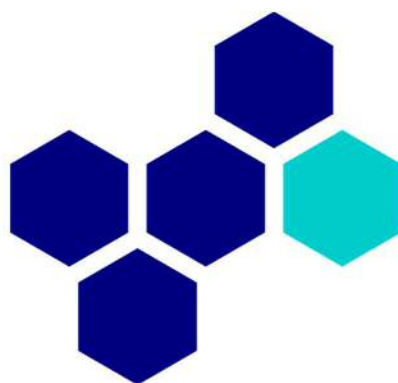


環境活動レポート 2018



KAMEDA & CO., LTD.
SINCE 1968

2019年6月24日作成
(対象活動期間:2018年4月～2019年3月)

亀田産業株式会社

目 次

- 1. 環境方針**
- 2. 事業概要**
- 3. 環境目標とその実績**
- 4. 主要な環境活動計画の内容**
- 5. 環境活動の取組結果と評価および見直し**
- 6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無**
- 7. 代表者による全体評価と見直し結果**

1. 環境方針

亀田産業株式会社 環境方針

当社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、経営のあらゆる面で環境に配慮して行動する。

この理念の下、企画、設計、製造、サービスの経営全般にわたり環境を考慮し、以下の方針を以って継続して環境保全活動を推進する。

1. 当社の経営理念を踏まえ、当社の活動・製品・サービスの性質・規模及び環境影響に対して適切な環境経営システムを構築する。
2. 当社の事業特性が、環境に与える影響を的確に捉え、環境経営システムの継続的改善を図る。
3. 環境関連法規、条例及び受入れを決めたその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努め管理レベルの向上を図る。
4. 当社の環境側面に係る以下の項目を、環境保全の重要項目として優先的に取り組む。
 - ①二酸化炭素排出量削減
 - ②廃棄物排出量削減
 - ③総排水量削減
 - ④化学物質使用量の適正管理
 - ⑤グリーン購入
 - ⑥自らが生産・販売・提供する製品及びサービスにおける環境負荷削減
5. この方針を達成するために、目標の設定と推進、教育・訓練の実施、代表者による見直しの実施等、文書化された環境経営システムを構築し、有効な施策を展開する。
6. この環境方針は全社員に周知するとともに、外部からの要求に対し開示する。

平成26年8月1日

亀田産業株式会社

取締役社長 亀田 清

2. 事業概要

1. 会社概要

- ・ 会社名 : 亀田産業株式会社
- ・ 所在地 : 栃木県宇都宮市川田町432
- ・ 代表者名 : 取締役社長 亀田清
- ・ 設立 : 1968年10月
- ・ 資本金 : 2,000万円
- ・ 従業員数 : 28名
- ・ 敷地面積 : 2,500㎡
- ・ 環境管理責任者 : 取締役社長 亀田清
- ・ 連絡先電話番号 : 028-656-3464
- ・ F A X 番号 : 028-656-7089
- ・ メールアドレス : info@kamedasangyo.co.jp

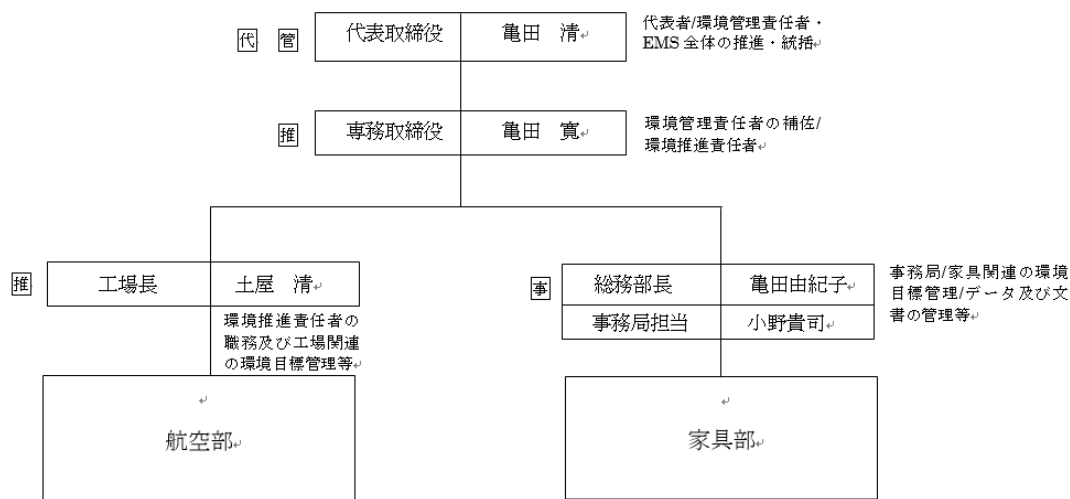
2. 沿革

- ・ 1956年 富士重工業（現SUBARU）取引開始
- ・ 1968年 亀田産業株式会社設立
- ・ 1984年 宇都宮市川田町（現在地）に店舗・工場建設
- ・ 1986年 工場増設・FRP関連部品受注
- ・ 1991年 工場増設・ハニカムコア受注・Boeing認定取得
- ・ 2005年 JISQ9100認定取得
- ・ 2006年 NADCAP認定取得
- ・ 2009年 エコアクション21認定取得

3. 事業活動概要（環境活動は全組織・全活動を対象とする）

- ・ 航空部 : 航空部品製作・加工（非金属ハニカムコア・ゴムSEAL・縫製品）
: 治具製作（FRP）
- ・ 家具部 : 家具販売（環境に優しい木製家具）
: 家具修理
- ・ 事業年度 : 10月～翌年9月
- ・ 環境活動年度 : 4月～翌年3月
- ・ レポート作成 : 年1回（6月）

4. エコアクション21実施体制の構築



3. 環境目標とその実績

項目	環境目的	課題(何を)	項目(単位)	達成基準(どこまで)				実績
				基準(BM)	目標		目的	
				2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
省エネルギー	◆省エネルギー/ 二酸化炭素の排出削減	○電気使用量の削減	目標使用量(単位:Kwh)	191586	191,011	190,436	189,670	6412
			CO2換算値*0.378(単位:Kg)	72420	92831	92552	92180	
			削減率	1%	99.7%	99.4%	99.0%	
			削減目標絶対値(単位:Kwh)	1916	575	575	766	
		○化石燃料使用量 (ガソリン)の削減	目標使用量(単位:L)	2,367	2,360	2,353	2,343	163
			CO2換算値*0.0183*34.6(単位:Kg)	1498	1494	1489	1483	
			削減率	1%	99.7%	99.4%	99.0%	
			削減目標値(単位:L)	24	7	7	9	
		○化石燃料使用量 (灯油)の削減	CO2換算値(単位:Kg)	15	4	4	4	966
			目標使用量(単位:L)	6,000	5,982	5,964	5,940	
			CO2換算値*0.0185*36.7(単位:Kg)	4071	4059	4047	4030	
			削減率	1%	99.7%	99.4%	99.0%	
		○削減目標値(単位:L)	削減目標値(単位:L)	60	18	18	24	13.7
			CO2換算値(単位:Kg)	41	12	12	16	
			目標使用量(単位:m ²)	80.0	79.8	79.5	79.2	
削減率	1%		99.7%	99.4%	99.0%			
○削減目標値(単位:m ²)	削減目標値(単位:m ²)	0.8	0.2	0.2	0.3	2.6		
	-	-	-	-				
	-	-	-	-				
	-	-	-	-				
省資源	◆水使用量の削減	○有効利用と節水の 徹底	目標使用量(単位:m ³)	65	64.8	64.6	64.4	2.6
			削減率	1%	99.7%	99.4%	99.0%	
			削減目標値(単位:m ³)	0.7	0.2	0.2	0.3	
			-	-	-	-		
	◆コピー用紙購入量の削減	○コピー用紙使用 削減	目標使用量(単位:枚)	8,000	7,976	7,952	7,920	-10048
			削減率	1%	99.7%	99.4%	99.0%	
			削減目標値(単位:枚)	80	24	24	32	
			-	-	-	-		
			-	-	-	-		
			-	-	-	-		
環境配慮	◆化学物質の使用量適正化	○支給される接着剤の 使用量を把握し 無駄な増加を防止	スクラップ数目標数(単位:点)	0	0	0	0	0
			0	0	0	0		
	◆グリーン購入の推進	○環境配慮品の選択 購入 (事務用品等)	低燃費車・工事目標数(単位:件)	1	0	0	1	0
			0	0	0	0		
◆環境負荷を低減する 工程計画の策定	○エネルギー使用量 削減 ○改善提案件数目標 管理 ○環境ビジネス	2019年度までに2016年度比1%削減	-	0.3%	0.3%	0.4%	113.1%	
		-	0.3%	0.3%	0.4%			
◆環境教育の充実	○環境意識の高揚	定期的に教育を実施する	2016/6/2	2017/6/2	2018/6/4	2019/6/4	2018/6/5	

※二酸化炭素排出係数は、基準(BM)設定時:0.378kg-CO2/kwh、以降:0.486kg-CO2/kwhを適用

4. 主要な環境活動計画の内容

項目	環境目的	課題(何を)	活動内容(どうやって)	責任者(誰が)
省エネルギー	◆省エネルギー／ 二酸化炭素の排出削減	○ 電気使用量の削減	空調を必要な区域・時間に限定する 消灯スイッチ確認,集中作業	環境推進責任者
		○ 化石燃料使用量 (ガソリン)の削減	集中配送,停車中エンジン停止	環境推進責任者
		○化石燃料使用量 (灯油)の削減	火力抑え目設定する,極力消す	事務局
削減 廃棄物	◆ 廃棄物削減／ 再資源化推進	○ 分別の徹底による 再資源化	修理・再利用の促進 粗大ごみは分解・分別して捨てる 資源ごみの分別	環境推進責任者
省資源	◆ 水使用量の削減	○ 有効利用と節水の徹底	こまめに止水するよう喚起する 水洗チェック	事務局
	◆ コピー用紙購入量の削減	○ コピー用紙使用量削減	チラシ等裏面の利用/文書の裏面利用 両面コピーの促進	事務局
環境配慮	◆ 化学物質の使用量適正化	○ 支給される接着剤の 使用量を把握し 無駄な増加を防止	接着剤使用量はスペックで厳格に使用量が 指定されているため、不具合によるスクラップ による廃棄をなくすことを目標とする	環境推進責任者
	◆ グリーン購入の推進	○ 環境配慮品の選択購入 (事務用品等)	低燃費車への切替 照明のLED化 2重サッシ等の断熱工事	事務局
	◆ 環境負荷を低減する 工程計画の策定	○エネルギー使用量削減 ○改善提案件数目標管理 ○環境ビジネス	活動継続性配慮 改善シート活用 家具修理推進	環境推進責任者
	◆ 環境教育の充実	○ 環境意識の高揚	定期的に教育を実施 社外情報などを社内報で水平展開	環境推進責任者

5. 環境活動の取組結果と評価および見直し

項目	環境目的	課題(何を)	項目(単位)	2018目標	2018実績	評価
省エネルギー	◆省エネルギー／ 二酸化炭素の排出削減	○電気使用量の削減	削減目標値 (単位:Kwh)	575	6,412	○
		○化石燃料使用量(ガソリン)の削減	削減目標値 (単位:L)	7	163	○
		○化石燃料使用量(灯油)の削減	削減目標値 (単位:L)	18	966	○
	コメント	経営と従業員のコミュニケーションも更に進み、環境関連実績は総じて順調に推移。従業員の環境意識向上に伴う、こまめな省エネ活動が功を奏し、目標を達成した。				
見直し	引き続きコミュニケーションをとりながら日々の取組を継続する。					
廃棄物削減	◆廃棄物削減／ 再資源化推進	○分別の徹底による再資源化	削減目標値 (単位:㎡)	0.2	13.7	○
		コメント	修理・再利用の促進、粗大ごみの分解・分別、資源ごみの分別など基本事項の徹底により目標達成できた。			
	見直し	目標達成はしたものの、一部機種の生産数減少に伴う影響も考えられるため、目標は維持し推移を注視する。				
省資源	◆水使用量の削減	○有効利用と節水の徹底	削減目標値 (単位:㎡)	0.2	2.6	○
	◆コピー用紙購入量の削減	○コピー用紙使用量削減	削減目標値 (単位:枚)	24	-10,048	×
	コメント	昨期まで目標達成していなかった水についても今期は目標達成した。一方「紙」については昨期に引き続き大きく未達となった。従来コピー機のカウンターで使用量を測ることにしていたが、これでは裏紙使用などの経営・従業員努力が数値に反映されないため、有料の紙購入量で測るように今期見直したもの。				
	見直し	前年度に比べ通信販売による受注件数が大幅に伸張しており、それに伴う発注書・納品書などの紙類が増えたことも一因として考えられる。引き続き営業・生産活動に支障のない範囲で削減努力を続ける。				
環境配慮	◆化学物質の使用量適正化	○支給される接着剤の使用量を把握 無駄な増加を防止	スクラップ数 (単位:点)	0	0	○
	◆グリーン購入の推進	○環境配慮品の選択購入 (事務用品等)	低燃費車・ 工事目標数 (単位:件)	0	0	○
	◆環境負荷を低減する 工程計画の策定	○エネルギー使用量削減 ○改善提案件数目標管理 ○環境ビジネス	2019年度までに 2016年度比 1%削減	0.3%	-13.1%	×
	◆環境教育の充実	○環境意識の高揚	定期教育実施	2018/6/4	2018/6/4	○
	コメント	「環境負荷」に関してはエネルギー使用量と連動する部分もあるため目標未達となったが、自社努力で実施できる部分は順調に推移している。				
	見直し	各種エネルギー使用量(特に「紙」)の増加要因を社内で話し合い対策のアイデアを練る。				

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

分類	規制名称	要求内容	当該基準/設備等	順守状況確認日
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物(マニフェストの管理)	Y	2019/6/1
		産業廃棄物(実績の報告)	Y	2019/6/1
		産業廃棄物(契約書の締結)	Y	2019/6/1
		産業廃棄物(廃棄物置き場の表示)	Y	2019/6/1
化学物質	フロン排出抑制法(H27.4施行)	フルオロカーボン(CFC, HCFC, HFC)の排出抑制(点検表別紙)	Y	2019/6/1
	消防法	指定数量以上の危険物施設の設置、変更等の許可申請	N/A	2019/6/1
		危険物保安監督者/危険物保安統括者の届け出	N/A	2019/6/1
	PRTR法(年間使用量が基準以下)	指定化学物質の排出/移動量の届け出	N/A	2019/6/1
	労働安全衛生法	有機溶剤作業主任者の選任	Y	2019/6/1
		特定化学物質作業主任者の選任	N/A	2019/6/1
		作業時の注意事項の掲示	Y	2019/6/1
毒物及び劇物取締法	特定化学物質の取扱い	Y	2019/6/1	
高圧ガス取締法	LN2,L02,LPG等高压ガス貯蔵所に対する届け出	N/A	2019/6/1	
循環型社会形成推進基本法	資源有効利用促進法	コピー機、事業系パソコン、二次電池等の事業者による自主回収、リサイクルの促進	Y	2019/6/1
	自動車リサイクル法	廃車に対するリサイクルの義務化	N/A	2019/6/1
	家電リサイクル法	特定家庭用機器廃棄時の引き渡し、処理費の支払い	N/A	2019/6/1

- (1) 遵守状況
 - ・ 上記の通り
 - ※N/Aは「非該当」
- (2) 更新時期
 - ・ 毎年6月
- (3) 苦情等の有無
 - ・ 創業から現在まで一切ありません。
- (4) 提訴等の有無
 - ・ 創業から現在まで一切ありません。

7. 代表者による全体評価と見直し結果

○ 2019年6月12日に行われた「代表者による見直し会議」でのコメント

- (1)目標期間中、紙使用量の目標を達成できなかったが、10年にわたり継続的活動の結果、ほぼ限界領域に接近している状況下であることを考慮する必要がある。このような中では削減実績を絶対値で追及することから、むしろ経営効率につながるポイントを絞り込み、集中的にPDCAを運用するようにしてゆくべきである。
- (2)今回から、EA21-2017版による審査に移行し、経営面での切り口に重点が移行している。その中で例えば紙資源の削減活動においては「コミュニケーションの改善」が経営的課題となれば、合理的な管理方法が重要になるので適切な目標設定をするべきと考える。
- (3)今後も厳しい条件下ではあるが、新しいシステムのもと、各部門には活動を継続し、効率経営を期して尽力をお願いしたい。

以上